

早いもので、令和六年も残り三カ月を切りました。年が明けた頃を振り返れば、多くの方が、今年目標設定に奮闘し、その成就を決意したことでしょう。しかし、現在、〈今年の抱負？ 目標は何だっただろうか？〉ということになっている人も少なくないようです。

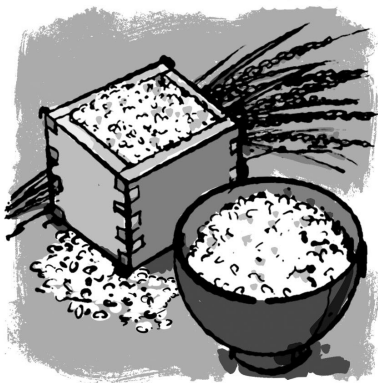
アプリ開発を手掛けるある企業の調査によると、新年の抱負について「達成できた」は十九%、「できなかった」は三十七%であるのに対し、「覚えていない」は、四十二%に上りました。

他人との約束ではない、自分だけの約束事は〈この決意は自分一人だけのこと。守れなかったとしても仕方がない〉と考えるまいがちです。しかし、決意を守らなければ、その人は大きな代償を払わなければなりません。

▼
食品会社を営む四十代のA氏は、ある年、健康維持を新年の目標に立てました。具体的には、七十キロから六十五キロへ体重を落とすダイエット計画です。しかし、痩せるどころか、年末には七十二キロに体重が増えています。

仕事の都合や取引先との付き合いを言い訳にし、妥協に妥協を重ね、決意を破ることもしばしばだったのです。しかも、半年が過ぎた頃には、目標をすっかり忘れ、年末にやっと思い出す始末でした。

このようにA氏は公私にわたって、目標達成をおろそかにしがちでした。それを反



約束の先にある 新たな自分に出会うために

省できればよいのですが、「仕方がないこと」として自分を許していたのです。

その甘さは後に大きな失態へとつながりました。大口の取引先との重要な商談に遅刻し、契約を逃してしまったのです。多くの人に多大な迷惑をかけた上、「あの人は約束を守れない人」というレッテルを貼られてしまいました。

倫理運動の創始者・丸山敏雄は、「きめごと」に関する生活法則を次のように説いています。

「約束の中で、最も破りやすく守りにくいのは、自分自身、『こうしよう』『これはすまい』と心にきめたきめごとである。(中略) 実は、一度口にした事、心にこうと定めた事は、宗教的に言えば神との約束となる」
〔『歓喜の人生』〕

「自分で心に定め、そうしようと思ったことを忘れることも、同じく約束を破ること、これはいよいよ物忘れすることになるだけではなく、性癖・環境の上にあられる各種の不幸の原因となる。

他人が約束を守らぬ。集金がはいらぬ。誠意ある人が遠ざかり、ナマクラが集まってくる」
〔『純粹倫理学大系』〕

倫理法人会の活動も、新年度が始まり一カ月が経過しました。役職者の方々は、年度はじめ式で披露した決意を思い起こし、普及目標の達成や、個人の実践目標の達成を何としても守っていきましょうではありませんか。その姿勢が共にする仲間たちにも波及していくはずですよ。